資料１

第４回日立市コミュニティ活動の在り方検討委員会について（報告）

１　日　時　　令和２年８月11日（火）
　　午前９時30分から午前11時45分まで
２　場　所　　日立市消防本部　３階講堂
３　出席者
（1）　委員　１８名　（欠席：古井委員、鈴木委員、橋本委員）
４　内容
（1）　委員長挨拶
・先月の委員会の中でスケジュールを一部見直した関係で、急遽お集まりいただいた。本日は前半がグループワークで、後半が会議ということになるが、各グループ６～７人に分けさせてもらった。大人数だと、意見交換は出来ても、中々本質的な議論は出来ないところがあるので、議論しやすい人数にさせてもらった。いつも以上に忌憚のない意見をお願いしたい。
・本日が１回目ということもあり少し手探りな部分もあるが、委員それぞれにいろいろな意見を持っていると思うので、それぞれの立場から意見を出し合ってもらいたい。コミュニティや活動に対する問題意識、何が問題なのかということについても、おそらく一人一人違うのではないかと思う。問題意識の違いを感じてもらったり、問題意識を共有してもらったり、おそらくいろいろな方々がアイデアを持っていると思うので、アイデアを共有してもらう。諺に三人寄れば文殊の知恵という言葉もあるが、ＡさんＢさんＣさんが議論し合うことで、ＡさんもＢさんもＣさんも思いつかなかったＤやＥという新しいアイデアが生まれることも多々ある。そういったことも本日のグループワークで生み出してもらいたい。本日、次回、次々回の３回のグループワークを通じて出てきた意見やアイデアの中から、１０月以降の検討委員会でブラッシュアップする際のたたき台になるものが出来てくるという意識でいるので、よろしくお願いしたい。
・本日の資料１をご覧いただきたいが、先日皆さんに議論いただいて論点を大きく３つに整理した。その中でさらに細かく小項目に分かれている。その中で本日は、基本的に「（１）新たな時代にふさわしいコミュニティ組織について」を議論いただく。ただし、（２）の活動や（３）の市民意識も当然リンクしてくるので、（２）、（３）も横目で見ながら、議論してほしい。また、（１）の中にも４点あるが、必ずしも４点すべてを各グループで議論する必要はない。もちろん議論しても構わないが、各グ

ループの議論の方向性によっては、ア、イに特化した話し合いになったり、ウに特化した話し合いになったり、全体を通した話し合いになったりする可能性もある。もしくはここにはない新しい論点が出てくることもあるかもしれないが、それもありだと思う。今回は、皆さんの問題意識やアイデアの共有、そして新しいアイデアの創出が目的なので、そういったことを念頭に置いてもらいながら議論をしてもらうようお願いしたい。

(2)　グループワーク「新たな時代にふさわしいコミュニティ活動について」

ア　グループワークに入る前に事務局から資料１、資料２、資料３についての説明を行った。

〇委員

・コミュニティの定義例の一番下の地域運営組織については、上の二つと比較すると具体性が欠けて、何が何だか分からない。自治会・町内会やボランティア団体のような、そういう定義はされていないのか。

〇事務局

・細かい定義は表現のとおりであるが、範囲としては小学校区というような例が示されている。

〇委員

・資料２の「区分」と「団体名」となっているところには、何かしら意味があるのか。また、資料３での減少の原因はある程度分かっているのか。

〇事務局

・資料２については、それぞれの定義についての部分と、具体的に例示した都道府県の部分で、表現を変えさせてもらったものである。

・資料３については、学区別の理由の分析はしていないが、成沢学区を例にとると、高齢化によって山側の団地から学区外に転出しているケースが多いように見受けられる。

イ　グループワーク

進行役について、Ａグループは砂金委員長、Ｂグループは石川副委員長、Ｃグループは西村委員が務めることとなった。

(3)　意見交換

グループワークにおける各グループの話し合いの内容について、進行役の３人から説明があった。

〇西村委員

・コミュニティの組織をどんな組織にすればいいかということについて議論をした。まず一つには、今ある自治会・町内会を残しておく、主体にするということではないが、緩やかなネットワークとしてつながっておきたいというような、住民の顔が見える活動ということで大切にしたい。自治会・町内会を残すには、負担感を取り除く必要があるので、市報配布や募金などについても追々議論する必要がある。

・コミュニティの考え方としても、今ある小学校区ごとの組織で行きたいと考えており、その中にある様々な団体と連携した事業としてコミュニティ活動は進めていきたい。もう一つとして、自治会や行政やコミュニティなどの中で、誰がコーディネートするのか、架け橋になるのかというところがこれから重要になると思う。誰が担う、どこが担う、こういったことが大事になってくる。コミュニティ推進会の中には若者を主体とした組織も考えられるし、個人会員も募集をして組織していき、支部や専門部などの役割も見直す必要がある。

・コミュニティ推進会はいい意味で市の補完が出来る組織でありたいが、今後は開かれたコミュニティ組織にする必要があるし、地域にある学校と共にあるコミュニティも模索しないといけない。

〇副委員長

・まず現状の問題点について議論をした。大きくは参加する市民が少なくなっているということを再認識したところである。本日は組織の在り方ということで、事務局から論点を４つ出してもらったが、それに関連してそれぞれの意見を出してもらった。

・コミュニティの組織の在り方については、現状は自治会・町内会が下部組織として活動してきているので、その活動を充実させた方がいいのではないかという意見があった。また、活動内容はまた改めて議論する必要はあるが、今までの自治会・町内会という組織を離れて、別の地区割りで考えて、コミュニティの組織基盤になるものを検討した方がいいという意見もあった。基本的には、住民全員がメンバーである組織というのが望ましいので、現状の下部組織の自治会・町内会に代わって別の組織があることが望ましいと思う。

・各種団体とコミュニティとの関連性として、各種団体の定義もいろいろあるが、ＮＰＯや百年塾など全市にわたって活動しているような団体については、コミュニティとは別に今までどおり活動を継続していただいて、今既に加わっているＰＴＡや学校、駐在所など、地域で連携している組織についてはコミュニティ組織

の中に入るべきではないかと思う。コミュニティというのは行政にとってどの程度必要なものかを考えることも重要であり、現実的に、自治会・町内会を通した市民への行政の情報周知というのが、今は市民への伝達の中心になっているのではないかと思っている。

〇委員長

・コミュニティ組織の在り方について、単会によって実態に違いがある。例えば単会によっては、市からの予算と社協からの予算を一旦同じ財布に入れて使っているところもあれば、別に管理して使っているというところもあるようである。また、資料３にもあるように規模もかなり違いがあり、人口や世帯の増減の在り方も単会によって相当な違いがあるので、完全に一律で考えるのは難しいのではないか。むしろ、最低限は組織の在り方を揃えて、単会ごとに独自性を持ってもいいのではないか。

・自治会・町内会との関連性については、必ずしも自治会・町内会を前提としないコミュニティの在り方も模索してもいいのではないかと思う。自治会・町内会の高齢化や加入率の低下は、日立市だけの問題ではなく、全国的な問題になっていて今後も大幅な改善は難しいであろうと考えられる。そのため、そこを前提とせずに、自治会・町内会もコミュニティの一部ではあるわけだが、自治会・町内会には入っていないけれどもコミュニティには参加する方や、自治会・町内会には入っているけれどもコミュニティには参加したくないという方がいたり、自治会・町内会を通じてコミュニティ活動に参加するという方がいたり、様々な形があってもいいのではないか。

・各種団体との関係性としては、既存の団体だけを前提としなくてもいいのではないかと考える。例えば、高齢者クラブについても高齢者クラブ自体が高齢化してしまっていたり、婦人会自体も高齢化していたりするので、ＮＰＯのように一つの地域を超えた活動をしている方との連携を模索したり、あるいは必ずしも書類上に位置付けられていない、おやじの会のような団体やグループも地域にはあるはずなので、そういったさまざまなグループなど、人と人とのつながりみたいなところにも声を掛けていって、コミュニティに巻き込んでいくことが出来ないか。中学生・高校生・大学生も、学校側が呼び掛けてボランティアや地域活動に興味がある人たちを集め、地域の活動に参加するというような仕組みを使って、声を掛けていくのもいいのではないか。

・行政との関係については、不公平感をなくすために行政に協力いただけないか。

コミュニティ活動の様々な恩恵から、排除できる活動と排除できない活動がある。全体清掃というのはコミュニティ活動に参加しなくても、町内会に入っていなくても恩恵は被る。防犯灯や外灯についても、町内会に入っていない、コミュニティ活動に参加していないということによって、排除できるものではない。そういった性質上コミュニティ活動から排除しにくい活動に関しては、例えば一斉清掃の費用や外灯の費用は市が一括して強制徴収する。そうしないと不公平はなくならない。逆にコミュニティの活動でも排除できるもの、参加した人には恩恵があるが、参加しない人には恩恵がないというものに関しては、参加したい人が参加して、費用も負担するということで、そういった形で行政にコミュニティ活動をサポートしてもらえないか。

・最後に、組織からは少し離れてしまうが、今の話に付随して、コミュニティ活動に参加しないと不都合ということを実感させるようなものが必要である。サロン活動のようなものや安心安全、コミュニティがあるからこそ安心安全に暮らせると実感できるような組織の在り方というものが模索されるべきである。

〇委員長

・各グループから報告があったが、報告を受けて、あるいは話し合いに参加して、各委員から何か意見はあるか。

〇委員

・コミュニティ活動に関して、他の自治体でコミュニティに強制的に入れるような条例を作っているところもあると思う。金沢や九州の久留米あたりで、強制というか入らなければならないような条例があったと思うが、日立市もそういった条例として、住民・市民はコミュニティに入会しなければいけないようなものを作った方がいいのではないか。

〇委員長

・行政との協働の部分になってくるかと思う。中々難しいところであり、完全強制になってしまうと、自主性が無くなり、そもそものコミュニティの定義から離れてしまう。一方で完全に自主性に任せてしまうと上手くいかない、いかにしてコミュニティに参加した方がいいと思ってもらえるような仕組みづくりを、行政も含めてやっていくのかというところは検討していかなければならない。

〇委員

・論点の整理として資料にもあるコミュニティというのは、コミュニティ推進会というように捉えていいのではないかと思っている。コミュニティ推進会と置き換

えた場合に、コミュニティ推進会の役割というのは何なのかというのを明確にすれば、コミュニティとコミュニティ推進会、自治会・町内会、各種団体、行政というふうに話しやすいのではないかと思う。コミュニティの在り方といったときに、こういった全体を含むという考え方だということになると、コミュニティ推進会とは何か、どういう役割があるかというところを明確にしておいたらいいのではないか。

〇委員長

・論点整理の中のコミュニティというのは、いわゆる単会、コミュニティ推進会のことを前提としている。前回の議論でもあったが、コミュニティというのは多義的な概念なので、人によって何を指してコミュニティと言っているのか、何を指してコミュニティ活動と言っているのかということが曖昧である。実際コミュニティと言ったときに、自治会・町内会が入るという考え方も当然あり、コミュニティ活動というものがいわゆる単会の活動以外の活動も含めて、コミュニティ活動と言うこともある。少なくても、コミュニティ推進会、つまり単会とは何か、単会とはどうあるべきかという理念、位置づけみたいなものはある程度はっきりさせるべきである。

〇副委員長

・本日の会議の中でも出ていたが、自治会・町内会の方はコミュニティからいろいろなことを指示されるという感覚で受け取られる方、団体が非常に多いのだなと感じている。この委員会で話し合うまでは、私は町内会の人たちから選ばれ、コミュニティ活動の内容について承認されて行っているつもりだったが、そうではなかった。

〇委員長

・おそらく本日集まっている委員の皆さんは、いろいろな立場から来ていてそれぞれ関心や問題の捉え方に違う部分があるのかなと思う。本日グループワークで議論いただいた意味の一つとしては、こういった問題意識の違いだったり、アイデアの違いだったりというようなものを共有していくということもある。そういった気づきも、今回のグループワークを通してあったのであれば、それも一つ良かった点だと思う。

〇委員

・先程のコミュニティ推進会とは何だというところで、今までの既存のコミュニティ推進会が担ってきたものを整理していった方がいいのではないかという話にな

った。考え方としては行政と自治会・町内会とのコーディネート役であるというような形をとっていくのがいいのではないかと思う。いろいろなものがそぎ取られて、必要なものに限定されていく、大事だと思うところに集約されていくのではないかと思う。

〇委員長

・コミュニティ推進会が担ってきたことの整理という論点はたしかに必要であり、次回の議題の市民が求めるコミュニティ活動というところで集中的に議論されるのかなと思っている。そこで、今提案してもらったコミュニティ推進会の在り方として、行政と自治会・町内会の橋渡し役であるということも一つの捉え方としてあっていいのかと思う。

〇委員

・今各グループの話を聞いたり、その後の質問を聞いたりしている中で、どんな組織にすると言ったときに、連携して円グラフになるような組織づくりが、新たな時代にふさわしい組織なのではないかと感じる。どこが仕切る、どこが受け持つというようなことをはっきり決めてしまうと、そうじゃない団体からの批判や、もっとこうして欲しいというような意見が出ると思う。そのため、円グラフの中心には住みやすい町ひたちというものがあり、その実現のために各団体や行政などが周りにいる。そして、その一つ一つの団体を今話のあったように、コミュニティ推進会や行政が協力して架け橋になっていくことで、丸い形になって日立市が新しく作られていくのかなと感じた。

〇委員長

・〇という考え方はすごくよい。行政でもよく言われていたが、今までは垂直なガバメントという組織で、国があって県があって市町村があってというような仕組みで、国が決めたことを県に降ろして、県が市町村に降ろしてという垂直関係だった。２０００年頃から、ガバメントからガバナンスへという言い方をされていて、ガバナンスというのはまさに円である。つまり、国も県も市町村も、あるいは市民など他の主体も、縦じゃなく横の関係、同格であり連携し合おうというのがガバナンスの考え方である。

・行政もそういった形で地方分業などが進んできたが、同じような形で単会、いわゆるコミュニティ推進会や他の様々な行政も含めた団体も丸い関係になってきて、ある意味コミュニティ推進会は円の中の行司役として連携の担い手として位置づけることも出来るかもしれない。

〇委員

・一番初めにどこから話し始めようかと考えたときに、今ある組織を一回無くしてしまって、何もないところから組み立てていくかという話もあったが、一方では高齢化により、それぞれの団体が高齢になってしまって力を失いつつある時に、本当に新しいまっさらなものでやれるのかと考えると、やれそうもないような組織を組み立ててもしょうがないというように思う。そうなると今ある組織をどう組み立て直していくのかというようなことから、どんな組織にしていくのがいいのかという点に入っていった。

・ずっとそこに住み続けたいと思うのは何かというと、そこにいて助けてもらったりしながら、安心して住んでここで終われるということかなと思う。そこに安心して住み続けられるというのはどういうことかというと、例えばコミュニティ、単会が頼りになるということかなと思う。高齢になって一人になったときに、電話したら困りごとに力を貸してくれるとか、行政につないでくれる仕組みがあるとか、何でもいいから相談が出来るようなコミュニティであるといい。

・たくさんの人を巻き込むことが出来れば人材バンク的なことも出来る。コミュニティで人材を発掘するということになると、高齢になるとやる気を無くしたり、力を無くしたりしてくるので、いち早く何かの方策が必要かなと思う。若い人が代わって何かやりましょうというような体制が出来ると、安心して老いていくことが出来るかなと思うが、そういう夢のある組織が出来るといい。ＮＰＯなどでやっている方の力を借りるのも大事なことだし、リーダーとしてはアンテナを下げさせないようにして、いろいろな情報をキャッチできるようにしておく必要がある。コミュニティ単会というのは、頼りになったり相談相手になったりというようなことが出来ればと思っている。

〇委員長

・コミュニティ単会が何でもいいから相談出来るという存在であるということが、日立にある２３の単会それぞれに共通してあっていい部分だと思う。そこでの暮らしやすさとか、そこで安心して暮らしていくという暮らしやすさの中身というのは、地域によって違う部分もあるのかと思うが、いずれにしても何でも気軽に相談できる存在というのはどこにも必要な存在である。今までもコミュニティ推進会はそういった側面を担っていたので、それをまた現状を踏まえつつ、新しい形で単会の在り方を模索していくというのは必要だと思われる。

・外から見ると日立市は先進地であり、他の市町村から視察に来たいという話もた

くさんある。もちろん、だから変えなくていいというわけではないが、今まで培ってきたことをゼロにするのはもったいないことだと思う。今までの中でも残すべきものは残し、新しくするものは新しくするという難しいタスクではあるが、そういったことを模索していきたい。

(4)　その他

ア　次回の日程等について

次回検討委員会は、８月２８日（金）午前９時３０分から、日立市役所５０３・５０４号会議室で行うことが確認された。

以　上